

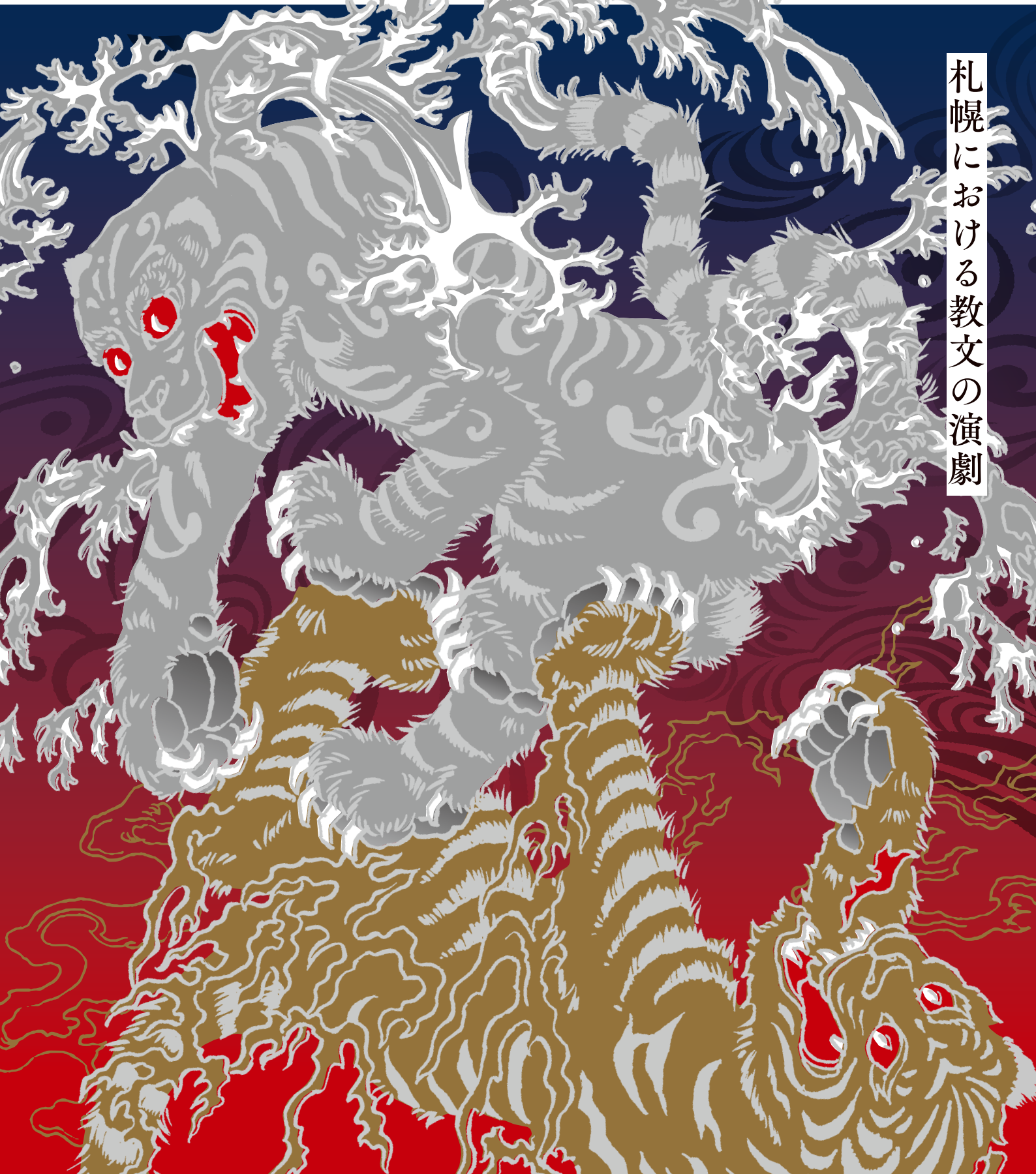


Sapporo
education and
culture hall
news

Raku

68

札幌における
教文の演劇



教文短編演劇祭とは

2008年から始まり教文短編演劇祭は、今では教文演劇フェスティバルのメインコンテンツとも言える演劇の祭典です。その熱い戦いは全国でも話題となり、日本を代表する短編演劇祭の1つとして成長しました。全国の演劇人から各年度のテーマにそった20分以内のオリジナル作品を募集。台本審査を通過した4組が本戦へと進み教文を舞台に作品を上演します。本戦では審査員による講評を行った上で、審査員と観客による投票によって優勝団体を決定します。優勝団体には手作りチャンピオンベルトや優勝賞金を贈呈。今年度のテーマは「チョウ」。台本審査を勝ち抜き本戦へと進んだ札幌の3組と京都の1組によって3年ぶりの熱い戦いが繰り広げられます。



教文演劇フェスティバル2022
短編演劇祭 四ツ巴戦
〈優勝劇団〉宇宙空地「グ、リ、コ」

劇祭」がスタート。道内外の劇団が20分の短編作品を持ち寄って競演するもので、観客にとっても劇団にとっても密度の高い交流と挑戦の場となると同時に、優勝団体には他の地域の演劇祭への出場権が与えられるなど、札幌発の演劇が外へと繋がるきっかけにもなりました。新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年以降は中断を余儀なくされましたが、2022年には短編演劇祭を中心に活動を再開。2023年からの大規模改修に伴った休館を経て、いよいよ2025年、演フェスが待望の全面復活を遂げます。教文は札幌における演劇文化の「舞台」であると同時に、その「育成と発信の拠点」として、札幌演劇に欠かせない役割をこれからも担っていきます。

99年からは実行委員会に地元の演劇人が参画。企画・運営に参画することで、地域性を反映したコンテンツを生み出し、翌年にはワークショップや公開稽古、展示などの多彩な体験プログラムを盛り込みました。また、親子向けワークショップやボランティア参加など、市民の裾野を広げる試みも積極的に行い、それまでの「観る演劇」から「関わる演劇」へと広がり、この頃から演劇を市民文化の一部として根付かせていく姿勢をより多角的に展開していきました。そして2008年からは「教文短編演

札幌市教育文化会館（以下、教文）は1977年の開館当時、まだ小劇場がほとんどない札幌において様々な芸術文化の制作・発表の場として多くの演劇人に利用され始めました。そんな教文で1985年から開催している「教文演劇フェスティバル（通称・演フェス）」の存在はそれぞれの時代において、札幌の演劇文化に重要な役割を果たしています。

演フェスは「高校演劇を含めた札幌の演劇の活性化」を目的にスタートし、当初は東京の劇団も招きつつ、地元劇団の公演の場として発展していきました。1989年からは出演劇団の公募がスタート。市内外の老舗劇団から若手劇団、子ども向けから社会派など多彩な顔ぶれが参加するようになりました。90年代にはさらに「教文演劇の夕べ」と題して札幌の演劇人が結集して合同公演を開催。演フェスとは異なるコンセプトで展開していきました。

教文の演劇

札幌における

「特集」

短編演劇祭2025 出場団体 | コメント

『僕らは火星で一人ぼっち』

劇団 words of hearts 【札幌】



劇団words of heartsです。およそ10年ぶりの短編演劇祭。久しぶりの参加にワクワクしています。今回は15年もの長きに亘って火星に水の痕跡を調査した無人探査機「オポチュニティ」の活躍を描きます。出演するのはこれから各方面で羽ばたくであろう若手7人。全員で一台（一人？）の火星探査機を演じます。吹き荒れる砂嵐、圧倒的な孤独。そんな時ふと見上げた空の彼方に見える小さな故郷。遠く離れた火星から地球を想う物語です。乞うご期待。

『虫のしらせの鳴り響く』

Pantoact 【札幌】



パントマイムと演技の実験場・PANTOACT（ぱんとーく）パントマイミスト・山田ヒデノリと俳優・明逸人が生み出すヘンテコ物語に、一人芝居のスペシャリスト・野村大がスパイスをかけまくります。言葉と身体の間隙から“音になる前の何か”がこぼれ出す。PANTOACTの第一回実験、目撃あれ。

『鳥 男』

サンデーボーイズ 【札幌】



みなさんこんにちは！ サンデーボーイズです！ 僕たちは、シュールで不条理をモットーに作品づくりを続けている3人組演劇ユニットです！ 初の短編演劇祭に出場ということで、それはそれは喜びを噛み締めております。コロナ前にも応募しましたがその時は予選敗退。なんとかリベンジできました！ さて今回の僕らの作品は「鳥男」。社会に疲れ、自由を求め、鳥に憧れた男の行方はいかに。ぜひその目でお確かめくださいー！

『ハムレットプロレス』

笑の内閣 【京都】



京都の時事ネタ風刺劇団 笑の内閣です。前回、2018年に参加予定だったのですが、フライト前日の9月4日に台風で関空の橋がぶっ壊れて、フェリーで向かったらその間に胆振東部地震が起きてまして、JRも停まっているので、タクシーで札幌まで行って宿舎まで着いたら、中止の連絡が来たので、ダラダラしてたら斎藤さんからシアター ZOOで代わりにやんなよって言われたので、同じ時間に上演しました。ということで、2回目選出の初出場です。



納谷 真大
NAYA Masatomo

札幌で活動する演劇ユニットELEVEN NINES（イレブンナイン）代表。2004年、演劇ユニットイレブン☆ナインを結成。2007年上演の「あっちこっち佐藤さん」はライブコート札幌舞台芸術賞演劇大賞を受賞。道内外で行っているワークショップも各方面から高い評価を受けている。俳優としてはイレブンナイン、富良野GROUPに主演する他、昨年放送された昼帯ドラマ『やすらぎの郷』（テレビ朝日）にもレギュラー出演。2018年12月には札幌文化芸術劇場 hitaru オープニングシリーズ事業「コドーを待ちながら」に主演するなど俳優としての出演の幅を広げている。また、2024年に新しく札幌に誕生したジョブキタ北八劇場の芸術監督に就任。

「インタビュー」納谷真大——俳優・演出家・劇作家

短編演劇祭で得た自分の作品への信頼

INTERVIEW

初めて教文短編演劇祭に出場したのは2010年。当時は札幌で自分の作品を公演すると沢山のお客様には見てもらえるのですが、いわゆる演劇関係者にはあまり評判がよくありませんでした。演劇の評価基準に色々あることはわかっていましたが、それでも、その状況にいかんともしがたい鬱屈とした気持ちを持っていたんです。そんな時に短編演劇祭の存在を知り、演劇では珍しく「優勝」というわかりやすい評価があることに魅力を感じました。また、審査員だけでなく観客も投票するシステムだったこともあって、勝てる可能性を感じて出場を決めました。結果的にチャンピオンになったことで、それまで評価されていなかった私の活動が認められた気分になったというか、自分がやっている表現に対して「間違っていない」と腑に落ちた気持ちになりました。

東京や名古屋で開催されていた全国大会に出場する権利をもらえた。自分の作品を全国レベルの環境で試す機会はそうそうありませんでしたから、貴重な機会でした。そこで打ちのめされもしましたし、モチベーションにも繋がりました。そこで道外の演劇人と出会えたのも、その後の大きな財産になりました。

短編演劇祭には翌年からディフェンディングチャンピオンとして出場することになり、とてもプレッシャーを感じていましたが、ありがたいことに三連覇させていたことができた。四連覇は果たせなかったのですが、新しい人達も出てきて若者たちに譲る頃合いかなと思った部分もあり、それからは出場していません。でも、今だに短編演劇祭に出場している団体が羨ましいです。「勝つ！」って気分で作品を創ってたあの頃に戻りたいですね。出るか迷っている人は絶対出たほうがいいですよ。



短編演劇祭ではELEVEN NINESとして三連覇を果たし、現在は子ども演劇ワークショップで講師をする納谷さん

教文演劇フェスティバル 2025

教文短編演劇祭

前夜祭

2025年8月28日〔木〕 19:00開演(18:30開場)
会場：札幌市教育文化会館 小ホール 〔チケット〕500円

6年ぶりとなる前夜祭が短編演劇祭の前日に開催決定

2019年に初開催となった前夜祭を6年ぶりに開催することが決定しました。今年のテーマ「チョウ」を題材とした20分の作品で競い合う短編演劇祭の前夜に開かれるもうひとつの物語。前夜祭スペシャル企画としてのエキシビジョン公演では短編演劇祭2019・2022年に二連覇の実績を持ち、札幌でも着実な認知度を積み上げている実力派ユニット・空宙空地（愛知）の参戦が決定！更に、短編演劇祭の豪華ゲスト審査員とのスペシャルトークセッションや、短編演劇祭の出場団体が翌日の決戦を前に作品の魅力を発信する「決起乱戦」など充実のコンテンツが盛りだくさん。3年ぶりの短編演劇祭は前夜から盛り上がること間違いなし！！



詳しくはHPをご覧ください
<https://kyobun.org/enfes-official/>



スマホからはこちら

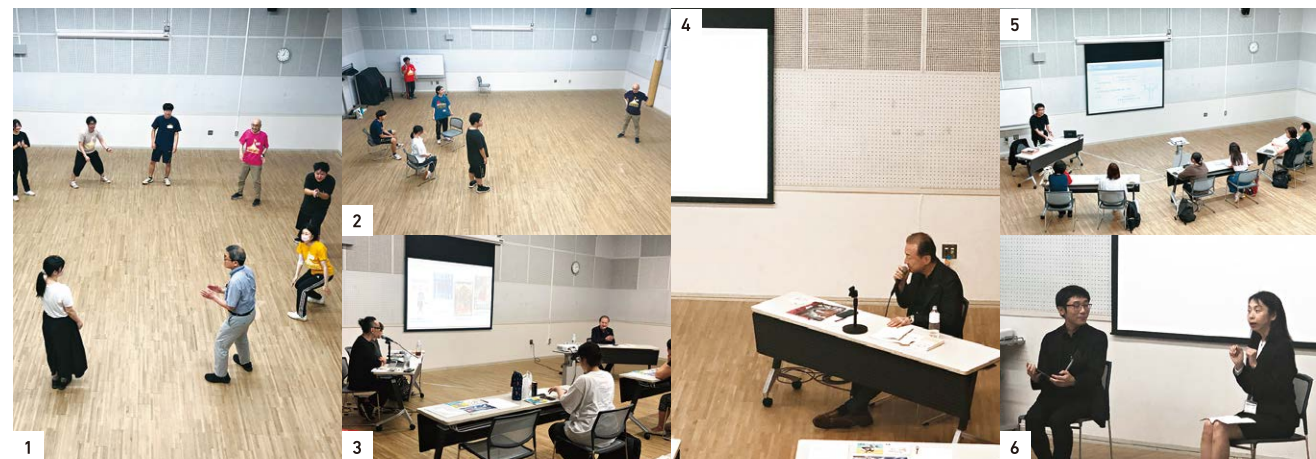
教文演劇フェスティバル2025

ワークショップ・レビュー

～地域の舞台制作を考える～

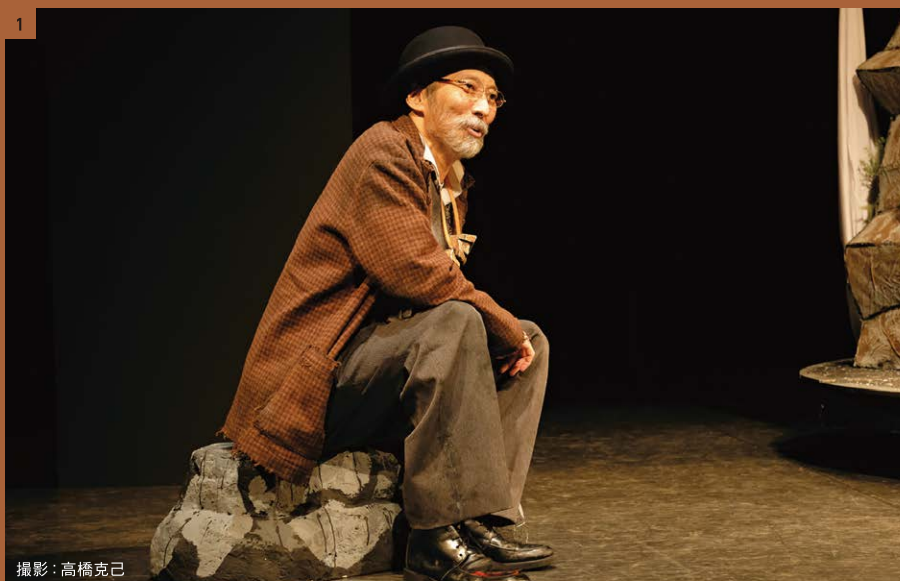
ワークショップ 5days

表現、企画、運営と演劇に関する実践的なワークショップ・セミナーを開催



- 1) インプロビゼーションWS: 目を合わせたら手を叩くというウォーミングアップから開始
- 2) インプロビゼーションWS: ルールや制約のなかで即興をおこなうゲーム
- 3) 舞台芸術企画セミナー: 細川氏のこれまでの経歴や公演の企画についてのご紹介
- 4) 舞台芸術企画セミナー: 札幌の演劇が抱える課題についてディスカッション
- 5) 当日運営スタッフWS: 当日運営スタッフワークの基本業務についてのレクチャー
- 6) 当日運営スタッフWS: 小劇場と大きなホールでの対応の違いや考え方について学ぶ

1 釧路市出身。北海道大学演劇研究会を経て、「札幌ロマンチカンシアター訪歸舎」(A.S.G) (アーティストツギルド・オブ・サッポロ) など数々の劇団に携わる。2000年より東京を拠点に舞台、映画、テレビで俳優として活動。2016年札幌に活動拠点を移したのち北海道演劇財団芸術監督、理事長に就任。享年60。



撮影：高橋克己



2



撮影：高橋克己



撮影：高橋克己

俳優
演出家
脚本家

齋藤
歩

さいとう
あゆむ



術



化



Art
Culture
Human

08

「演劇には力がある」からこそ
続けられた担い手という立場

「北海道の演劇界を牽引する存在」多くの人にそう言われていた齋藤歩さんが長い闘病の末、2025年6月にこの世を去りました。齋藤さんは公益財団法人北海道演劇財団の理事長を努めると同時に、芸術監督として北海道の風景や文化を背景とした作品を数多く生み出し、育成してきた俳優たちとともに発表していきました。また、シェイクスピアやチェーホフといった骨太な作品も上演し、札幌市民に演劇の魅力を広く伝えていきました。齋藤さんの取り組みは劇作だけに留まりません。ここには書ききれない数多くの取組に携わり、広く演劇の普及に努めるなど、まさに演劇に捧げた人生と言えるでしょう。そんな齋藤さんは8月9日から札幌演劇シーズンで上演される『劇後鼎談(アフタートーク)』にも作・演出・出演として深く関わっていました。「公益財団じゃなくて齋藤歩劇団だったら、こういう芝居ばっかりやりたいんだよ。」と生前言っていた作品です。見る人のタイミングによっては人生を左右してしまうほど

「演劇には力がある」と常と言っていた齋藤さん。だからこそ、その力をどう用いるのか常に真摯に考えていました。公の立場と個人の立場、生み出す人の立場次第で作品の受け取られ方が大きく変わるとことを認識し、財団の仕事として線引きをして作品を生み出していた齋藤さんは「60歳を過ぎたら好きなものを好きな人とやりたい。」と言っていたそうです。札幌の演劇文化に貢献するという役割を優先してきた齋藤さんは、関わっていた数多くの演劇に関する取組を次の担い手へと引き継いでいきました。しかし自身の言葉が与える影響を気にしてか、あえて今後の指針を伝えることはありませんでした。「俺が今なにか言ったら、そうしなきゃいけないっちゃうじゃん。だからそっちで決めて。」バトンを継いだ人々は、今、その立場に何を思っているのでしょうか。あらたに公の立場となった人々が齋藤さんのように、それぞれの考えで演劇に真摯に取り組んでいくことで、北海道の演劇文化が次へと紡がれていくでしょう。

TOPICS.1

Workersワーカーズ!

「日本の職人文化×現代サーカス」——一見すると接点のないこの2つが、瀬戸内サーカスファクトリーの手によって融合し、教文に登場! 大工の仕事がサーカスに?! 「建てる」がサーカスになる。パーカッションのリズムに乗って、サーカスアーティストたちが舞台上で木材の構造物を組み立て、登り、ぶら下がり、驚きの技を繰り広げていきます。逞しくも美しい身体表現とともに、「ものづくり」がもたらす感動をぜひ会場で堪能してください!

Workers ワーカーズ!

日 時 令和7年8月20日[水]

15:00開演(予定上演時間 60分)

チケット 一般 2,000円 小中学生 1,000円
未就学児無料(要整理券)

※終演後、舞台上でのサーカス体験開催予定(小学生限定)。詳細はHPをご覧ください。



TOPICS.2

教文オペラファミリープログラム
「ちいさなひとのためのオペラ
銀河鉄道の夜」

親子で楽しめるコンサートなどを上演するaccie(アッチェ)の協力のもと、教文オペラファミリープログラム「銀河鉄道の夜」を6月28日(土)に小ホールで開催しました。生演奏や歌声にうっとりしたり、「ちいさなひと合唱団」の元気いっぱいな姿に微笑む姿もありながら、最後には少し切なくなったりと、とても感慨深い公演となりました。今回は『リラックスポフォーマンス』として、ホールでの鑑賞に不安がある方でも安心して楽しめるような工夫もあり、小さな子どもから大人まで楽しめる空間が生まれていました。来場者からは「感動した」「子どもと一緒に観られる機会が少ないのでとてもよかった」などの声や、「銀河鉄道の夜をまた読み返そうと思う」など、物語の素晴らしさにも気が付けてくれる機会にもなりました。



写真撮影：n-photo